

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系 ネットワーク全体構想（案）の目標及び取組内容

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク全体構想(案) 目次

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク全体構想(案)の目次構成を以下に示します。赤枠の部分が今回、ご意見をいただきたい内容です。

1 全体構想について

- 1-1. 全体構想の位置づけ
- 1-2. 対象区域

2 生態系ネットワークと指標種のコウノトリ・ツル類

- 2-1. 生態系ネットワークとそれによってもたらされる恩恵
- 2-2. 河川を基軸とした生態系ネットワーク形成の取組
- 2-3. 指標・シンボルとしてのコウノトリ・ツル類

3 徳島県でのコウノトリ・ツル類の飛来・生息状況と取組の現状

- 3-1. 徳島県へのコウノトリ・ツル類の飛来・生息状況
- 3-2. 吉野川流域での主な取組
- 3-3. 那賀川・勝浦川流域周辺での主な取組

4 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク形成の目的・目標

- 4-1. 目的
- 4-2. 目標

5 取組の方向性と内容

- 5-1. 取組の方向性
- 5-2. 取組内容

6 検討・推進体制、スケジュール

- 6-1. 検討・推進体制
- 6-2. 各主体の連携・協働
- 6-3. スケジュール

7 資料編

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク形成の目標

生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）において、2050年までのビジョン（長期目標）として「自然と共生する社会の実現」が採択されていることから、長期を2050年、中期を2030年（SDGsの目標年）、短期を2025年までとして、徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワークの目標を設定しています。

短期目標 ～2025年	
<p style="text-align: center;">生息環境づくり</p> <p>【コウノトリ】 吉野川流域で、採食環境と営巣環境の保全整備が継続して行われ、複数ペアのコウノトリが繁殖している。また、那賀川・勝浦川流域周辺でも、採食環境と営巣環境の保全整備が進められている。</p> <p>【ツル類】 ツル類の安定したねぐら環境の確保に向けて、吉野川、那賀川、海部川等の河川区域での砂州や干潟の保全・再生及び人の利用の調整、周辺の農地での冬期湛水やため池の冬期の水位調整等が進められている。河川の周辺地域で、採食環境の保全整備が進められている。</p>	<p style="text-align: center;">地域・人づくり</p> <ul style="list-style-type: none">○先行取組地域の農業関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類との共生に資する農産物やその加工品を認証する制度が拡充されている。○先行取組地域の観光関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類を活かした観光に向けた受け入れ体制や施設整備が促進されている。○コウノトリ・ツル類が各地域で受け入れられ、多様な主体の連携・協働の取組と地域間の交流が行われている。また、2025年大阪・関西万博等の機会を通して、コウノトリ・ツル類と共生する取組がアピールされ、徳島県や先行取組地域の認知度が上がっている。

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク形成の目標

中期目標 ～2030年	
<p style="text-align: center;">生息環境づくり</p> <p>【コウノトリ】 吉野川流域で、3～5ペアのコウノトリが繁殖し、安定した生息地となっている。那賀川・勝浦川流域周辺でも、コウノトリが繁殖している。また、徳島県内の他地域においても、採食環境と営巣環境の保全整備が進められている。</p> <p>【ツル類】 徳島県内へのツル類の渡来、越冬が続いている。吉野川、那賀川、海部川等の河川区域及び周辺地域で、ねぐら環境、採食環境の保全整備、人の利用の調整が継続して行われている。また、徳島県内の他地域においても、ねぐら環境、採食環境の保全整備が進められている。</p>	<p style="text-align: center;">地域・人づくり</p> <ul style="list-style-type: none">○徳島県内の各地で関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類との共生に資する農産物やその加工品のブランド化が行われ、国内外への流通・販売が展開されて、経済効果を上げている。○徳島県内の各地で関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類を活かした観光が行われ、経済効果を上げている。○多様な主体の連携・協働の取組と地域間の交流がさらに拡大している。コウノトリ・ツル類との共生に取り組む徳島県や各地域の地域イメージが向上し、地域の関係人口が増えている。

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク形成の目標

長期目標 ～2050年

- ◇徳島県でコウノトリ・ツル類がくらししていることが日常の光景となり、これらが舞い降りる川や田んぼは、カエル・魚・虫などの生物多様性が豊かで、良好な水辺の景観が広がる場所となっている。
- ◇川と里での生態系ネットワークの取組が、山や海へ広がり、各地域特有の自然資源や歴史・文化・伝統を最大限に守り活かした産業が営まれている。
- ◇地域に住み、働き、訪れる人々が、自然とのつながり・人とのつながりを実感できる、徳島県独自の魅力的で持続性のある地域づくりが展開されている。

生息環境づくり

【コウノトリ】

徳島県内の河川流域でコウノトリが繁殖・定着し、年間を通じた身近な存在となっている。堤内・堤外が一体となった生態系ネットワークの形成が達成されている。

【ツル類】

冬の訪れと共にナベヅル・マナヅルの群れが飛来し、徳島県内の河川の流域で越冬する姿が見られる。堤内・堤外が一体となった生態系ネットワークの形成が達成され、国内における安定した新越冬地になっている。

地域・人づくり

○コウノトリ・ツル類を指標とした徳島県内の生態系ネットワークの形成が、国内のみならず国際的にも注目されるようになり、ブランド農産物や訪日観光客を通じて地域経済や地域活力を担う有力な資源となっている。

○コウノトリ・ツル類の存在を地域の新たな誇りとし、その生息環境の保全・再生・管理が地域の多様な主体による連携と協働で持続的に進められ、人々はその結果として様々な自然の恵み（生態系サービス）を享受できるようになっている。

取組の方向性と内容（コウノトリの生息環境づくり）

取組の方向性

徳島県内で、コウノトリの野外繁殖箇所、繁殖数を増やすためには、吉野川流域での生息環境づくりの取組を継続・拡大するとともに、各主体と連携・協働して、その他の地域においてもビオトープの整備、水域の連続性の改善等の取組をさらに推進し、年間を通して食物となる生物が豊富な採食環境と営巣環境を確保することが必要です。近年、野外でコウノトリが狩猟用のわなや農作物用の防獣ネットなどの人工物により死傷する事案が増えており、人の影響を緩和することも望まれます。



水田魚道の設置



水路の堰上げ

取組内容

①コウノトリの採食環境の保全・創出	
【河川】	<ul style="list-style-type: none"> ■河道掘削による浅場・湿地の創出 ■河川内、河川-水路間の連続性の確保
【ため池】	<ul style="list-style-type: none"> ■ため池での浅場の造成 ■冬期のため池の水位調節による浅場の創出
【農地、休耕地】	<ul style="list-style-type: none"> ■水路-水田、水路-レンコン田間の連続性の確保 ■水路の環境改善 ■農薬・化学肥料の使用量の低減 ■適度な畦畔の刈り取り ■中干し時期の調整 ■退避溝（江）の設置 ■冬期湛水の実施 ■休耕地での通年湛水によるビオトープの創出
【遊休地等】	<ul style="list-style-type: none"> ■遊休地（未利用地）でのビオトープの創出
②コウノトリの営巣環境の保全・創出	
【飛来地周辺】	<ul style="list-style-type: none"> ■人工巣塔の設置 ■里山林の保全・管理
③コウノトリへの人による悪影響の緩和	
【河川】	<ul style="list-style-type: none"> ■河川パトロールの際の状況確認
【営巣地周辺】	<ul style="list-style-type: none"> ■来訪者の接近や車両乗り入れ自粛の要請 ■銃猟自粛、特定猟具使用禁止区域（銃器）への編入の検討
【農地・休耕地】	<ul style="list-style-type: none"> ■接近の自粛要請 ■防獣ネットなどの人工物への対応 ■電線への対策

取組の方向性と内容（ツル類の生息環境づくり）

取組の方向性

徳島県内で、ツル類の越冬箇所、越冬数を増やすためには、各主体と連携・協働して、吉野川、那賀川、海部川の砂州等のねぐら環境の保全を進めるとともに、増水や人為的影響等によって利用できなくなった場合の代替ねぐらを確保することが必要です。また、周辺の農地等で、採食環境を整えることが必要です。



二番穂の確保



ため池の水位調節

取組内容

①ツル類の採食環境の保全・創出	
【河川】	■ ツル類の採食地に侵入した外来種への対応
【ため池】	■ 冬期のため池の水位調節による浅場の創出
【農地、休耕地】	■ 農薬・化学肥料の使用量の低減
	■ 稲刈り時の一部刈り残し
	■ 耕起の時期の調整による二番穂や落穂の確保
	■ 適度な畦畔の刈り取り
	■ 中干し時期の調整
	■ 退避溝（江）の設置
	■ 冬期湛水の実施
	■ 休耕地での通年湛水によるビオトープの創出
【遊休地等】	■ 遊休地（未利用地）でのビオトープの創出
②ツル類のねぐら環境の保全・創出	
【河川】	■ 樹木伐採等によるレキ河原の保全・再生
	■ 河道掘削による水辺の緩傾斜化
	■ 干潟環境の保全・再生
【ため池】	■ 冬期のため池の水位調節による浅場の創出
【農地、休耕地】	■ 冬期湛水の実施
③ツル類への人による悪影響の緩和	
【河川】	■ 河川パトロールの際の状況確認
【ねぐら周辺】	■ 人や車両の立ち入り自粛要請の看板の設置
	■ 車両の立ち入りの制限
	■ 砂州での砂利採取による影響の軽減
	■ 銃猟自粛、特定猟具使用禁止区域（銃器）への編入の検討
【農地・休耕地】	■ 接近の自粛要請
	■ 電線への対策

取組の方向性と内容（地域・人づくり）

取組の方向性

徳島県内でのコウノトリの安定的な生息・繁殖、ツル類の安定的な越冬の実現のためには、各地域で住民や事業者等の理解と関心を醸成するとともに、各主体と連携・協働して、農業や観光への活用を進める必要があります。また、取組を継続的に実施するための活動資金の確保も重要です。



認証農産物や加工品の情報発信



観光の受け入れ体制の充実

取組内容

農業振興	■農産物の認証制度の設計・運用、拡充
	■認証農産物や加工品の情報発信
	■認証農産物や加工品の飲食・購入の場や機会の充実
観光振興	■学校等の給食での認証農産物の利用
	■コウノトリ・ツル類を活かした観光のルール設定
	■コウノトリ・ツル類を活かした旅行商品や体験プログラムの開発
	■コウノトリ・ツル類を活かした観光の受け入れ体制の充実
	■コウノトリ・ツル類を活かした観光の拠点等の整備
理解と関心の醸成	■コウノトリ・ツル類を活かした物産品の開発
	■情報発信の充実
	■情報提供イベントの実施
	■取組への参加の場や機会の提供
	■アドプト・プログラムの生息環境づくりへの拡大展開
	■地域住民への啓発
	■農業者への啓発
	■漁業者・釣り人への啓発
	■来訪者や写真・動画の撮影者への啓発
	■傷病鳥の対応の周知
	■水鳥と鳥インフルエンザの関係性や対応策の周知
■学校教育等との連携	
■地域間の交流の推進	
資金の調達	■ガバメントクラウドファンディングの活用
	■交付金等の活用
	■助成金等の活用
	■取組応援型金融商品の開発
	■利益の一部を還元する仕組みの構築